



日本共産党市議団

小野寺幸恵・原 啓司・富岡 隆



小野寺幸恵 議員

●国際リゾート構想の見直し

コロナ禍により国内観光客や外国人観光客が減少した事態から、「ひとたび危機が起こると大きな影響を受ける脆弱性を持っているのが国際リゾートであることが明らかになった」と、市長の姿勢を見直すよう求めました。

●国際リゾート環境影響調査

北海道知事が「R誘致を見送った要因でもある猛禽類について、実態調査が行われておらず、市が毎年調査を実施している指標鳥であるアオサギにも触れられていないことを指摘し、さらなる調査を求めました。

また、ウトナイ湖の水位が1969年から約80cmも下がっていることから、ウトナイ湖周辺の環境を守るうえで、リゾートによる取水はすべきではないと求めました。



富岡 隆 議員

●休業支援金の支給遅れ深刻

コロナ関連支援策の審議で、休業支援金の支給遅れの問題を取り上げ、市の姿勢を質疑しました。道の支援金20万円に市が10万円上乗せした個人事業者向けの支援金は、約450の対象事業者のうち支給決定はわずか7件となっており、飲食店など法人、個人事業者合わせて対象事業者は約650見込まれていますが、道の支援金10万円に市の20万円を上乗せする給付金の支給決定は5件にとどまっている、支給はいまだに進んでいないと指摘しました。「道の休業支援金に市の上乗せ分の支給がなぜここまで遅れているのか。一日も早く事業者を救うために、事態を重く受け止め、道に強く要請すべきだ」と迫りました。

市長は「ここまで遅くなるとは思わなかった。スピード感を持ってできないのか、側面的に道に言っていくきたい」と答えました。



原 啓司 議員

●特別定額給付金事業について

新型コロナウイルスの感染拡大で事業者への休業要請が行われる中、家計へも大きく影響が出ています。全国的には、特別定額給付金の支給要件から外れる4月28日以降に生まれた新生児に対しても支給対象範囲を拡大する自治体が増えていることを他都市の例を示しながら指摘し、本市での検討状況について質疑しました。

これに対し、「他市での支給拡大の動きはあるが、本市での独自の財源による給付金の支給は検討していない」と答えました。

また、ホームレスの方への制度の周知や申請への支援のあり方について、市の取り組み状況を質疑しました。担当者からは、「6月4日に市内の巡回を行い制度の周知と実態の把握を行った」「ネットカフェなどでの長期滞在されている方々なども含め、必要な支援を行っていくたい」と答えました。

無所属

議員 高秀 触沢

新型コロナウイルス感染症に対する市の現状、対応について質問しました。現状から「正しく恐れる必要がある」と市の答弁がありました。屋外、野外でのマスクの利用方法については、「正しい予防とわかりやすい周知」を両立していきたいと答弁がありました。SNSを利用した情報発信については、市は現在、Facebook（フェイスブック）、LINE（ライン）の運用をしていますが、情報の拡散性の高さからTwitter（ツイッター）を早期に導入すべき、と質問しました。市は「Twitterの導入は慎重に判断したい」と答弁がありました。

情報発信に関しては間違いないSNSが中心になると思うがと、今後について質問し、「時代の流れに即してどのツールを選択するかということも見極めながら、広報活動に取り組んでまいりたい」と答弁がありました。